

2017年第98号

(2017.7.4)

2017年夏休み（7月15日～8月31日）の旅行動向

旅行意欲の高さはこの夏も続き、遠距離方面も人気

総旅行人数は 7,733 万人(前年比+0.8%)と微増
海外旅行人数は 273 万人(前年比+3.4%)と過去 2 番目に

JTBは、「夏休み（7月15日～8月31日）に、1泊以上の旅行に出かける人」の旅行動向の見通しをまとめました。

この調査は、1,200人から回答を得た旅行動向アンケート、経済動向、業界動向や航空会社の予約状況、JTBグループの販売状況などから推計したもので、1969年に調査を開始して以来、今年で49回目となります。

調査結果は以下のとおりです。

(表1)2017年夏休みの旅行人数、旅行平均費用、旅行消費額の推計

	2017年夏休み			2016年夏休み	
	推計値	前年比	前年増減	実績推計	前年比
総旅行人数	7,733万人	+0.8%	+59万人	7,674万人	▲1.7%
国内旅行人数	7,460万人	+0.7%	+50万人	7,410万人	▲2.0%
海外旅行人数	273万人	+3.4%	+9万人	264万人	+9.1%
国内旅行平均費用	34,400円	+2.1%	+700円	33,700円	▲2.9%
海外旅行平均費用	242,000円	+11.9%	+25,700円	216,300円	▲14.0%
総旅行消費額	3兆2,269億円	+5.2%	+1,588億円	3兆681億円	▲5.1%
国内旅行消費額	2兆5,663億円	+2.8%	+692億円	2兆4,971億円	▲4.8%
海外旅行消費額	6,606億円	+15.7%	+896億円	5,710億円	▲6.1%

* 旅行人数は、延べ人数数値。平均費用は一人1回あたりの費用

* 国内旅行人数は宿泊を伴う旅行者の人数（観光および帰省目的の旅行に限る）

海外旅行人数は出国者数（業務目的の旅行を含む）

* 国内旅行平均費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む

* 海外旅行平均費用は、燃油サーチャージ含む。旅行先での土産代等の現地支払費用は除く

* 対前年比は小数点第二位以下を四捨五入

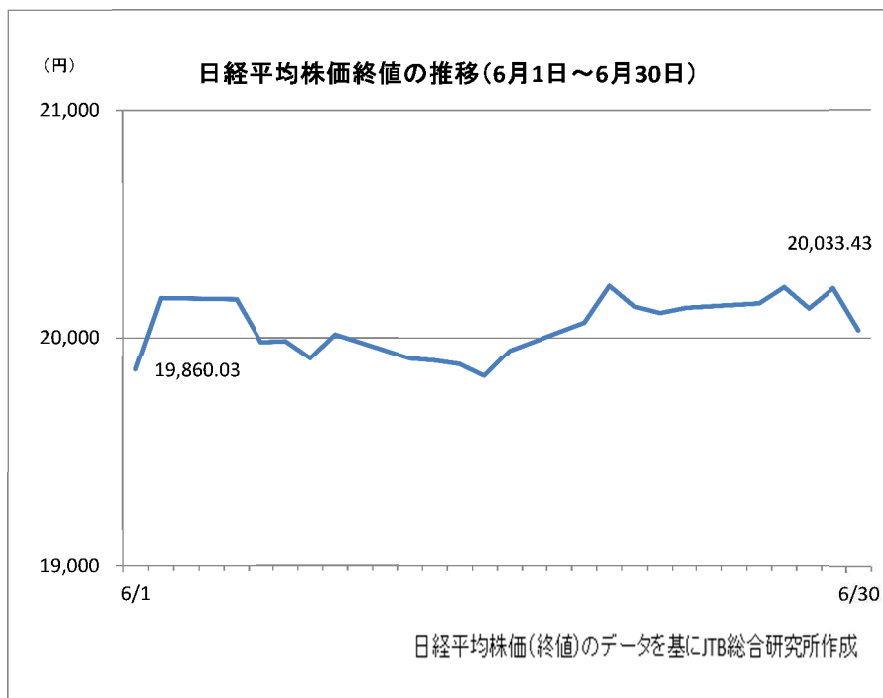
<社会経済環境>

1. 社会経済環境と旅行消費の基調

この1ヵ月間の日経平均株価は、概ね19,000円～20,000円で推移しており、内閣府は6月の月例経済報告で、国内景気の基調判断を「緩やかな回復基調が続いている」に引き上げました。景気判断の上方修正は2016年12月以来6ヵ月ぶりです（図1）。有効求人倍率は、5月は前月に比べて0.01ポイント上昇の1.49倍と、バブル期のピーク1990年7月の1.46倍を上回りました。一方、2017年夏季の大手企業のボーナス（一時金・賞与）平均額は、前年比▲4.56%の91万7906円（6月9日日本経済団体連合会発表）となり、2012年以来、5年ぶりに前年を下回っています。総務省家計調査報告の消費支出は、3月は前年同月比▲1.3%、4月は同▲1.4%、5月は同▲0.1%でした。このようなことから家庭の節約傾向は弱まりながらも続いているとみられます。

同調査の宿泊料の項目は、3月は前年同月比+16.5%、4月は同+1.8%、5月は同▲8.3%、パック旅行費（海外旅行含む）は、3月は前年同月比+12.3%、4月は同▲7.3%、5月は同+2.5%であり、総じてみれば、旅行についてはプラス方向への動きがみられます。6月に当社が実施した旅行動向アンケートで「今後の旅行支出に対する意向」を聞いたところ、「支出を増やしたい（18.3%）」が前年より3.5ポイント増加し、「支出を減らしたい（24.3%）」は2.9ポイント減少しました。旅行の支出に関しては、積極的な気持ちが強いとみられます（表2）。

（図1）日経平均株価の推移



（表2）今後の旅行支出に対する意向の変化（調査月ベース）（ ）は前回との差/単位%

	今回(2017年6月)	前回(2016年6月)	前々回(2015年6月)	
支出を増やしたい	18.3 (+3.5)	14.8 (▲1.2)	16.0 (+3.5)	
同程度	単価を減らし回数を増やす	12.9 (+0.6)	12.3 (+0.0)	12.3 (▲0.3)
	単価を増やし回数を減らす	5.7 (+0.1)	5.6 (▲0.3)	5.9 (▲0.2)
	単価も回数も同程度	34.5 (▲0.8)	35.3 (+0.9)	34.4 (▲0.4)
支出を減らしたい	24.3 (▲2.9)	27.1 (▲0.4)	27.5 (▲2.8)	

* 無回答があるため合計 100%にはなりません。

2. この夏の旅行を取り巻く環境と生活者の旅行意向

2017年の夏は、7月17日の「海の日」の祝日と8月11日の「山の日」の祝日を含む3連休が2回あります。連休に合わせて夏休みをとる人もいれば、企業の夏休みが8月11日から10連休となる人も多くいると考えられます。昨今の働き方改革推進や労働環境の見直しが進められていることから、連続休暇取得への後押しもありそうです。

今回実施したアンケートで、「今年の夏の生活や旅行について」聞いたところ、収入や支出に関しては、「昨年より収入が減った」と回答した人は23.3%、「昨年より収入が増えた」と回答した人は15.2%でした。「先行きがわからないので大きな支出は控えておきたい」は42.0%という結果でした。夏休みについては、昨年と比べて長さは変わらないと回答した人が31.1%となりました。(表3)

景気全体としては回復基調にあり、多くの企業が3月期好決算だったにもかかわらず、個人の所得上昇にはあまりつながらず、人々の今後の生活への経済的な不安は続いています。しかしながら、昨年夏より遠方へ旅行したいという回答も5.3%あり、夏休みには、旅行を楽しみたいという気持ちがみられます。

(表3) 今年の夏の生活や旅行について

(複数回答)

昨年より収入が減った	23.3%
昨年より収入が増えた	15.2%
今年の夏はボーナスが減りそうだ	7.5%
今年の夏はボーナスが増えそうだ	4.7%
先行きわからないので大きな支出控えておきたい	42.0%
物価上昇の前に大きな買物したい	2.3%
昨年の夏と休みの長さは変わらない	31.1%
昨年の夏より遠方へ旅行したい	5.3%
昨年の夏より近場の旅行に行きたい	4.4%

<2017年夏休み旅行動向予測>

1. 海外旅行人数は、273万人(前年比+3.4%)、一人あたりの旅行平均費用は242,000円(前年比+11.9%)。出発日のピークは8月11日(金)、8月12日(土)

日本人の年間海外旅行者数は、2012年の過去最高をピークに減少し続けてきましたが、2016年には前年比+5.6%の1,711万人と上昇に転じました。今年5月の日本人出国者数(推計値)は前年比+6.6%の131万5000人で、1月から5月までの平均伸率は6.7%で推移しています(日本政府観光局(JNTO)6月21日発表)。この傾向はこの夏休みも続くと考えられ、海外旅行に出かける人数は、273万人(前年比+3.4%)、一人あたりの旅行平均費用は242,000円(前年比+11.9%)と予測します。

各国の日本円に対する為替レートは6月末現在では2016年の同時期に比べると円安傾向で、昨年は0円だった燃油サーチャージは2月から復活していますが、上昇額は2012年以降の推移を見ても大きいとはいえません(表4、表5)。またここ数年でアジアを中心とした国際線LCCの就航が増えたことから旅行者の価格面での選択肢が増え、海外旅行の後押しとなっていると考えられます。

海外旅行の行き先は、アジアは前年比+2.0%、ヨーロッパは前年比+8.0%となる見込みです(表14)。昨年よりも長期連続休暇を取得できる環境にあることから、全体的にヨーロッパや北米などの遠距離の旅行者の伸びが予想され、相対的にアジアのシェアは少し下がると予測します。ヨーロッパは、北欧やドイツ、スペインなどが好調で、建国150周年のカナダ、ファミリーで楽しめるオセアニアも人気が高まっています。

JTBの海外パッケージツアー「ルックJTB」の予約状況によると、全体的に出発日のピークは、8月11日(金)8月12日(土)で、ハワイやオセアニアなどの方面では、7月末や8月末の出発も目立ち、旅行代金が比較的安くなる時期をねらって旅行する様子も見られます。

(表4) 各年6月30日の日本円に対する各国の為替レート(単位:円)

	17年	16年	15年	14年	13年	12年
米ドル	113.00	103.91	123.96	102.36	99.59	80.31
ユーロ	129.47	115.89	136.99	139.81	130.03	100.24
英ポンド	149.79	142.41	197.03	176.63	154.30	127.12
100韓国ウォン	10.01	9.16	11.14	10.22	8.82	7.08
中国元	16.79	15.76	20.09	16.62	16.35	12.95

東京外国為替相場/T.T.Selling(三菱東京UFJ銀行調べ)

(表5) 8月の燃油サーチャージ額の推移(日本航空の場合/日本発着/往復/単位:円)

	17年	16年	15年	14年	13年	12年
韓国	400	0	1,000	5,000	4,000	4,400
中国	1,000	0	5,000	14,000	11,000	9,000
香港	1,000	0	5,000	14,000	11,000	12,000
台湾	1,000	0	5,000	14,000	11,000	12,000
グアム・サイパン	2,000	0	6,000	16,000	13,000	14,000
タイ・シンガポール・マレーシア	3,000	0	9,000	26,000	21,000	23,000
ハワイ・インドネシア	4,000	0	12,000	32,000	27,000	30,000
米国・欧州・中東・オセアニア	7,000	0	21,000	50,000	42,000	47,000

2. 国内旅行人数は、7,460万人(前年比+0.7%)、一人あたりの旅行平均費用は34,400円(前年比+2.1%)。出発日のピークは8月11日(金)~8月15日(火)

観光庁の宿泊旅行統計調査では、2017年3月の日本人の延べ宿泊者数は3,683万人泊(前年同月比+1.2%)、4月は3,182万人泊(同+0.8%)、5月は3,594万人泊(同+4.1%)でした。夏休み期間も家計を節約する傾向は続くと思われませんが3連休が2回あり、旅行への意向は依然高いことから、国内旅行に出かける人数は、7,460万人(前年比+0.7%)、一人あたりの旅行平均費用は34,400円(前年比+2.1%)と予測します。

アンケートによれば、「旅行目的」では「帰省・離れて住む家族と過ごす」が19.8%(前年比+0.4%)と微増です。一方、「テーマパークやレジャー施設」は、13.4%(同+4.1%)と増加しています(表6)。「宿泊施設」については、「ホテル」46.2%(前年比+3.5%)、「旅館」26.4%(同+0.4%)と増加し、「実家・知人宅」は26.6%(同▲0.7%)と微減です(表7)。「同行者」は、全体では家族連れが69.3%(同+1.4%)で、そのうち、「子供づれ(中学生まで)」が34.5%(同+2.6%)と増加、「夫婦のみ」16.5%(同▲0.6%)は昨年より減少しています(表8)。

今年家族とともに宿泊と伴いテーマパークやレジャー施設に出かける旅行が多いと考えられます。「利用交通機関」は、「飛行機」17.3%（前年比+2.8%）が増えており、遠距離の旅行に出かける人も多そうです（表9）。

「国内旅行先」では、LCCにより路線が拡充した北海道や、新規エリアがオープンしたユニバーサル・スタジオ・ジャパンがある近畿が人気です（表10）。また、列車の旅が話題の九州や北陸も注目されています。

JTBの国内パッケージツアー「エースJTB」の予約状況によると、出発日ピークは、8月11日（金）～8月15日（火）となっています。遠距離方面が好調で、ファミリーでリゾートを満喫することができる沖縄本島や離島、九州の離島も人気です。

（表6）旅行目的

（単一回答）

	%	昨年差
1 帰省、離れて住む家族と過ごす	19.8	+0.4
2 テーマパーク・レジャー施設	13.4	+4.1
3 温泉でゆっくりする	12.1	▲2.7
4 自然や風景を楽しむ	11.3	▲3.5
5 家族や友人との親睦を深める	8.5	▲0.3
6 史跡や名所を見る	7.5	+2.1
7 海辺で保養、海水浴	6.2	▲1.8
8 おいしいものを味わう	4.6	▲0.3
9 観劇、イベント参加、スポーツ観戦	4.1	+1.5
10 ハイキング・登山・キャンプ等	3.4	▲0.2
11 クラブやサークルの旅行や行事	2.6	+0.5
12 高原で保養・避暑	1.8	+0.8
13 都会・都市で過ごす	0.8	▲1.5
14 リゾートでエステやスパ	0.8	+0.3
15 ボランティアに参加する	0.0	▲0.3

（表7）利用宿泊施設（海外旅行除く）（複数回答）

	%	昨年差
1 ホテル	46.2	+3.5
2 旅館	26.4	+0.4
3 実家・知人宅	26.6	▲0.7
4 民宿・ペンション	12.5	+1.1
5 その他	3.0	▲3.5

(表8) 同行者

(単一回答)

	%	昨年差
家族づれ	69.3	+1.4
子供づれ(中学生まで)	34.5	+2.6
夫婦のみ	16.5	▲0.6
三世代	8.2	▲1.6
それ以外(母と娘など)	10.1	+1.0
家族と友人・知人	8.8	▲1.3
友人・知人	11.9	+0.5
団体(職場・地域など)	2.1	+0.5
ひとり	4.6	▲2.1

(表9) 利用交通機関 (海外旅行除く) (複数回答)

	%	昨年差
乗用車	64.2	+0.2
レンタカー	7.2	+0.2
*鉄道	24.7	+0.9
JR新幹線	16.0	+0.7
JR在来線・私鉄	16.2	+1.4
飛行機	17.3	+2.8
長距離バス・貸切バス	7.5	+1.3
フェリー・船舶	2.1	▲0.2
その他	0.3	▲0.5

* 鉄道はJR新幹線とJR在来線・私鉄の重複回答者を除いてカウント

(表10) 国内旅行先

(複数回答)

	%	昨年差
北海道	8.3	+1.4
東北	9.7	▲2.4
関東	20.2	▲0.4
甲信越	10.2	▲1.0
北陸	4.1	+0.6
東海	9.1	▲1.0
近畿	15.2	+2.3
中国・四国	9.1	+0.3
九州	11.0	+0.6
沖縄	3.0	▲0.3

(表 1 1) 旅行日数 (単一回答)

	%	昨年差
1泊2日	41.0	▲1.2
2泊3日	34.0	+0.8
3泊4日	11.9	▲0.8
4泊5日	4.1	+0.5
5泊6日	3.9	+1.1
6泊7日	0.3	▲0.5
7泊8日	1.3	±0.0
8泊以上	2.6	+0.2

(表 1 2) 旅行に行かない理由 (複数回答)

	%	昨年差
1 仕事などで休暇がとれない	31.9	+2.1
2 特に旅行したいと思わない	27.4	+3.1
3 混雑する時期に旅行をしたくない	22.5	+1.6
4 夏休み以外の時期に旅行する	15.8	+1.5
5 家計の制約がある	15.4	▲3.2
6 家や親族の事情で家を離れられない	13.5	▲2.6
7 暑い時期に旅行をしたくない	12.2	+0.7
8 ペットがいるので家を離れられない	11.9	+1.2
9 家族、友人等と休日が重ならない	9.8	▲1.3
10 旅行商品や宿泊交通等の値段が割高	6.0	▲1.4
11 今年は日帰り旅行をしようと思う	5.6	▲0.8
12 家にいた方が楽しみが多い	4.9	▲0.9
13 物価が上がったので支出を控える	2.8	▲2.2
14 旅行以外にやりたいことがある	2.0	▲1.8
15 希望する予約がとれない	0.9	▲0.1

(表 1 3) 今後の旅行支出に対する意向の変化 (調査月ベース) (表 2 再掲)

		()は前回との差/単位%		
		今回(2017年6月)	前回(2016年6月)	前々回(2015年6月)
支出を増やしたい		18.3 (+3.5)	14.8 (▲1.2)	16.0 (+3.5)
同 程 度	単価を減らし回数を増やす	12.9 (+0.6)	12.3 (+0.0)	12.3 (▲0.3)
	単価を増やし回数を減らす	5.7 (+0.1)	5.6 (▲0.3)	5.9 (▲0.2)
	単価も回数も同程度	34.5 (▲0.8)	35.3 (+0.9)	34.4 (▲0.4)
支出を減らしたい		24.3 (▲2.9)	27.1 (▲0.4)	27.5 (▲2.8)

* 表7、表9、表10、表12は、複数回答のため合計が100%を超え、それ以外は、無回答があるため合計100%にはなりません。

<生活者アンケート 調査方法>

調査地点： 全国 200 地点
調査実施期間： 2017 年 6 月 2 日～14 日
調査対象： 全国 15 歳以上 79 歳までの男女個人
サンプル数： 1,200 名
調査内容： 2017 年 7 月 15 日から 8 月 31 日に実施する1泊以上の旅行
調査方法： 調査員による質問用紙を使った個別訪問調査

<報道機関の方からのお問い合わせ先>
JTB 広報室 03-5796-5833

(表14) 2017年夏休み(7/15~8/31)海外旅行人数推計 (単位:万人)

	2017年	前年比	2016年	前年比	2015年	前年比
総数	273	+3.4%	264	+9.1%	242	▲6.9%

アジア合計		146.1	+2.0%	143.3	+14.4%	125.3	▲10.2%
中国	32.4	+3.2%	31.4	+12.1%	28.0	▲11.1%	
韓国	30.6	+1.0%	30.3	+39.0%	21.8	▲31.4%	
台湾	21.9	+1.9%	21.5	+18.1%	18.2	+0.6%	
香港	8.4	+2.4%	8.2	+3.8%	7.9	▲9.2%	
タイ	16.7	+1.8%	16.4	+7.2%	15.3	+2.7%	
シンガポール	8.3	+1.2%	8.2	+1.2%	8.1	▲1.2%	
インドネシア	5.0	+2.0%	4.9	+19.5%	4.1	±0.0%	
マレーシア	2.9	±0.0%	2.9	▲12.1%	3.3	▲5.7%	
(その他)	19.9	+2.1%	19.5	+4.8%	18.6	▲0.5%	

北米州合計		66.8	+3.9%	64.3	+3.0%	62.4	▲1.3%
ハワイ	26.1	+5.2%	24.8	+6.0%	23.4	+0.9%	
グアム・サイパン	12.9	±0.0%	12.9	▲3.7%	13.4	▲8.2%	
米国本土	23.8	+4.4%	22.8	+2.7%	22.2	+0.5%	
カナダ	4.0	+5.3%	3.8	+11.8%	3.4	+3.0%	

欧州合計	44.5	+8.0%	41.2	+1.0%	40.8	▲6.8%
-------------	-------------	--------------	-------------	--------------	-------------	--------------

大洋州合計		11.3	+3.7%	10.9	+12.4%	9.7	+2.1%
オーストラリア	6.5	+3.2%	6.3	+16.7%	5.4	+1.9%	
ニュージーランド	1.4	+7.7%	1.3	+18.2%	1.1	+10.0%	
南太平洋	3.4	+3.0%	3.3	+3.1%	3.2	±0.0%	

その他 (アフリカ・中南米等)	4.4	+2.3%	4.3	+2.4%	4.2	±0.0%
------------------------	------------	--------------	------------	--------------	------------	--------------

*各国政府・観光局発表の日本人入国者数ならびに法務省統計から推計

(表 15) 夏休みの旅行動向発表数値の推移

	旅行人数(万人)			旅行平均費用(円)		総消費額
	総数	国内旅行	海外旅行	国内旅行	海外旅行	(億円)
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
2000 (期間変更)	7,423	7,159	264	35,832	206,065	31,094
2001	7,562	7,296	266	35,115	210,149	31,210
	1.9%	1.9%	0.8%	▲ 2.0%	2.0%	0.4%
2002	7,612	7,369	243	33,654	213,091	29,978
	0.7%	1.0%	▲ 8.6%	▲ 4.2%	1.4%	▲ 3.9%
2003	7,535	7,347	188	33,923	222,893	29,113
	▲ 1.0%	▲ 0.3%	▲ 22.6%	0.8%	4.6%	▲ 2.9%
2004	7,490	7,242	248	34,975	208,851	30,509
	▲ 0.6%	▲ 1.4%	31.9%	3.1%	▲ 6.3%	4.8%
2005	7,604	7,365	239	35,300	214,600	31,128
	1.5%	1.7%	▲ 3.6%	0.9%	2.8%	2.0%
2006	7,657	7,410	247	35,716	223,100	31,977
	0.7%	0.6%	3.3%	1.2%	4.0%	2.7%
2007	7,662	7,420	242	36,200	232,000	32,474
	0.1%	0.1%	▲ 2.0%	1.4%	4.0%	1.6%
2008	7,572	7,348	224	35,800	249,000	31,884
	▲ 1.2%	▲ 1.0%	▲ 7.4%	▲ 1.1%	7.3%	▲ 1.8%
2009	7,353	7,128	225	34,300	212,300	29,225
	▲ 2.9%	▲ 3.0%	0.4%	▲ 4.2%	▲ 14.7%	▲ 8.3%
2010	7,669	7,427	242	35,500	222,100	31,741
	4.3%	4.2%	7.6%	3.5%	4.6%	8.6%
2011	7,524	7,264	260	33,260	227,300	30,070
	▲ 1.9%	▲ 2.2%	7.4%	▲ 6.3%	2.3%	▲ 5.3%
2012	7,736	7,460	276	33,730	231,400	31,546
	2.8%	2.7%	6.2%	1.4%	1.8%	4.9%
2013	7,887	7,624	263	35,010	240,420	33,015
	2.0%	2.2%	▲ 4.7%	3.8%	3.9%	4.7%
2014	7,805	7,545	260	34,850	249,800	32,789
	▲ 1.0%	▲ 1.0%	▲ 1.1%	▲ 0.5%	3.9%	▲ 0.7%
2015	7,803	7,561	242	34,700	251,500	32,317
	±0.0%	0.2%	▲ 6.9%	▲ 0.4%	0.7%	▲ 1.4%
2016	7,674	7,410	264	33,700	216,300	30,681
	▲ 1.7%	▲ 2.0%	9.1%	▲ 2.9%	▲ 14.0%	▲ 5.1%
2017	7,733	7,460	273	34,400	242,000	32,269
	0.8%	0.7%	3.4%	2.1%	11.9%	5.2%

* 対象期間は7月15日～8月31日